



第7号
(発行所)

真宗大谷派
松岡山 廣讚寺

中村区城屋敷町3-30
TEL(052)411-5301
FAX(052)411-5341

稚児さんとみんな

先駆は長老だ …………… そうだそうだ

高張提灯は二十八日講だ …… 村中一致だぞ

仏旗はどうだ …………… 青年だ ピチピチの若だぞ

楽僧・助音方よ …………… 辻毎に二曲をたのむぞ 平和の

女人講・同朋会・役員の皆さん …… あまり真面目な

顔をするなよ 今日ほめでたいでよ

さあさあ主役の稚児さんだ …… みんなええ顔してるな

そうだよみんな 仏の子だもの

今日の母ちゃんは きれいだネ

さてどんじりは

たくさんのお坊さん方 …… 秋の陽のすがすがしさよ

讚仏の天地の声をきく

大きな傘がくるぞ …………… 入ろうか みんなでよ

みんな入っても まだあいてるぞ

人類・動物・生物 ごっちゃ／＼だ

あつまれ あつまれ



聖人のおことば (末燈鈔本より)

「シカレバコノ信心ノ人ヲ、釋迦如来ハワガシタシキトモナリトヨロコビマシマス。コノ信心ノ人ヲ真ノ仏弟子トイヘリ。」

私達仏教徒にとって大切な行

事の一つとして帰敬式がある。

通俗的には「おかみそり」と称し



ている。仏教を信じます。仏教徒の仲間いりをします。仏の弟子になりますといった作法である。その際釋云々という名前をいただくことになっている。釋すなわち釋迦如来の弟子という意味である。

「信心の人を真の仏弟子といへり」と聖人はおさとしになっている。信心とはどんなことなのか。お釋迦様からわが親しき友なりと呼ばっていただけける人

とはどんな人をいうのだらうか。末燈鈔に次の文がある。

「第十八ノ念仏往生ノ本願ヲ信樂スルヲ他力トマフスナリ」とある。阿弥陀如来が我が名、すなわち阿弥陀仏の名を称えなさい。かならず救うと言ってみえるから。こんな私でも、そんなに思っていて下さるとはすみません、すみません、ありがとうございまずと南無阿弥陀仏を称えてよそ心のないのが真宗の他力の念仏であると安心することだと思う。

この世にいろいろな宗教がある。仏祖が、聖人が念仏を称する者は我が仲間(同朋)でありとさとされる。幸せをよくよくよろこばねばならぬ。





モグラの話

今日は二十組の「ご命日のつどい」である。仲間と二人で地下鉄名駅を下車。さて何番出口であったかと案内パンフレットをとり出すが、皆目わからない。地上はビルばかりだ。めじるしとて何一つない。ままよと一方向に進む。あちらからキョロキョロ、こちらからキョロキョロとパンフを片手にした老人に出会う。行く先は同じだと安心して、しばらくついていくと先行組がこともあろうに一本間違えたらしいとつぶやいてもどつてくるではないか。吾々二人もまわれ右だ。こうなると東西南北とつくに錯乱さくらんしている。

見上げれば青い空ではあるが、針の穴から覗くようだ。ご命日の集いにゴソゴソ集まる俺達は都会のモグラだなーと二人で笑う。その時先行組が「あつた。ここだ」と歓声をあげた。

龍宮乙姫様の宮殿によくある、鐘楼門をくぐってやっと安心した。この日のお話はお釈迦様のお話でありがたかった。

※十一月案内

十二月八日(土) 同朋会

十二月二十四日(月) 学習会(予定)

十二月二十八日(金) 二十八日講・女人講

◆報恩講執行

十二月五日(金) 午前九時 仏華・華束・作業

午後一時 お勤め・法話 住職

十二月六日(土) 午前十時 お勤め・法話 住職

おとき(お昼食)

午後一時 お勤め・御伝鈔

十二月七日(日) 午前十時 お勤め・絵伝説教

おとき(お昼食)

午後一時 お勤め・絵伝説教



おかげさまで、御遠忌も大円成で
役員一同喜んでおります。
詳細は後日。まずは報告までを。

申し経宿